

・国道497号西九州道で、側溝閉塞による越水のため、盛土法面が浸食された箇所、及び、対策が完了していた切り土法面において、アンカー頭部の飛び出しが確認された箇所の今後の対応策検討のために、TEC-FORCEアドバイザーに現地診断をしていただき、意見を伺った。

参加者：福岡大学 佐藤教授^{さと}、佐賀国道事務所

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断状況(令和7年12月23日)



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・路面の変状は見られないが、早急な対策が必要と判断される。張りコンクリート工が適切に機能せず、崩壊の要因になっている可能性が考えられる。良質な盛土材を用いた再盛土を行う必要である。
- ・小段の一部に転石が認められるため、落石対策の検討も必要と考えられる。またボーリング調査を行い、地下水位の現時点での位置および集水井がしっかりと機能しているかどうかについて新たな調査を行い、既往データとも比較検討する必要がある。